第7番 十楽寺

- ●徳島県阿波市土成町高尾字法教田58 ☎088-695-2150
- ●宿坊/あり(要予約)



第8番 熊谷寺

- ●徳島県阿波市土成町土成前田185 ☎088-695-2065
- ●宿坊/なし



沿線の見どころ



道の駅どなり

国道318号線沿い、渓谷美を誇る奥宮川内 県立自然公園内にある道の駅。テーマは食とアートの融合。館内では郷土食たらいうどんをはじめ、お手頃価格で定食、喫茶が楽しめる。手づくりアート作家の販売コーナー、屋外にはコインシャワー、キャンプ場、遊歩道もあり車中泊にも適している。詳細は「道の駅どなり」でWEB検索。

営 10:00~17:30(11~3月は~17:00) 保月曜(祝日の場合は翌日)



境内の見どころ



爱染堂

遍照殿という額のかかげられた中門は、上層部が愛染堂となっている。門の中にある階段を上ると、愛欲貧染の煩悩をそのまま悟りに変えるという愛染明王が祀られている。愛染明王は縁結びの本尊で、結婚に限らず諸々のご縁を結んでくれるといわれ、参拝者はもちろん、成就したお礼参りに訪れる人も数多い。



境内の見どころ



水子地蔵

鐘楼門をくぐってすぐのところに祀られているのは、亡くなった子どもを慰める水子地蔵。上り坂に沿って、視界いっぱいに約70体もの水子地蔵が並んでいる。赤子を抱いたお地蔵様のまわりを小さな愛らしいお地蔵様が囲んでいる光景は見る人の心を動かし、自然と手を合わせたくなる。







日本遺産

日本遺産「四国遍路 | ~ 回遊型巡礼路と独自の巡礼文化~

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に



第7番

^{光明山}十楽寺

こうみょうざん れんげいん じゅうらくし

十の楽しみを得るよう願って建立

歴史•全体像

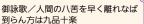
現在地より3km余り奥の十楽谷に堂ヶ原という場所がある。この地を訪れた弘法大師が阿弥陀如来を感得し、樟で本尊を刻み堂宇を建立して開基した。またその際、山号・寺名を命名するにあたり、生・老・病・死・愛別離苦(愛する者といずれ別れなければならない苦しみ)、求不得苦(求めるものが得られない苦しみ)など、人間が持つ八つの苦しみを阿弥陀如来の慈悲によって克服し、十の光明に輝く楽しみを得られるようにとの願いを寺名に込めた。その後、長宗我部軍の兵火に遭い焼失。寺は江戸期に入って現在の場所へ移転。その後も再建などが繰り返されたが、本尊は創建時より伝わるものだ。

境内

朱色と白のコントラストが美しい中国風の鐘楼門は、十楽寺のシンボルとして知られている。上層が朱塗り、下層が漆喰という凝った造りをしている。エキゾチックな雰囲気を漂わせているうえ、深緑の背景に映えるため、ここで記念撮影をするお遍路さんも多い。

この門をくぐり中へ入ると、正面に水子地 蔵尊が祀られており、その横の石段を上って いくと中門遍照殿がある。この門は上層部が 愛染堂となっており、階段を上ると中に愛染 明王が祀られている。

本堂の右側に客殿と方丈があり、大師堂 は本堂に向かって左手の石段を上ったとこ ろにある。



本尊/阿弥陀如来

真言/おん あみりた ていぜい から うん

宗派/高野山真言宗 開基/弘法大師









日本遺産

2017年3月作成

